



問 同様の戦争遺産を展示している他県の事例では、10数億の予算をかけた大きな資料館が建設されている。加西市としてはどの程度の規模で考えているのか。

答 他県の例などを参考にしながら、基本設計の中で考えていきたいと思えます。

問 神戸大学敷地内の防空壕は購入予定なのか。

答 用地買収ではなく使用貸借で検討しています。昨年度神戸大学との協議が整い、貸与の了解を得ているところです。

問 青野原俘虜収容所の歴史的価値について。

答 たとえ一部でも建物が残っているのは非常に貴重であり、また、ドイツにおいても、青野原の一部ではあるが、研究されている方が数名いるなど、非常に重要な戦争遺跡と考えています。

意見 建物が残存しているということだけではなく、当時、俘虜の方の知識や技術が伝えられて地域と交流が起こったことそのものを深く掘り下げることも、意味のあることと考える。



問 地方創生推進交付金について。

答 従来、地域再生法の枠組みで実施していたものに組み込まれた形で、新たに制度設計されました。加西市においても、地方創生戦略で掲げた事業をより強力に推進するために、交付金を申請しているところです。

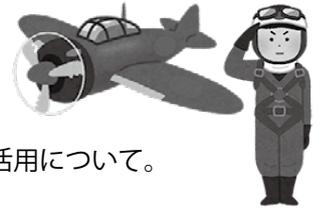
具体的には、総務費「元気なまち再生事業」、保健衛生費「歩くまちづくり推進、運動ポイント事業」、都市計画費「鶉野飛行場を活用した、戦争史跡めぐり交流促進事業」、社会教育費「青野原俘虜収容所の活用と交流促進」の4事業に充当します。

問 朝から元気コミュニティ創造事業について、ラジオ体操を中心とした健康長寿につながる事業であれば、ふるさと創造会議の立ち上げが遅れている地域のみを対象とするのではなく、全市的な取り組みとすべきではないか。

答 公益財団法人・地域社会振興財団の健やかコミュニティモデル地区育成事業メニューを活用して実施するため、市が事業主体である場合には交付対象とならないことから、まずは地域にお願いして、ラジオ体操を用いた健康まちづくりを市内全域に知っていただき、そして、加西弁のラジオ体操なども作成して市外へ発信していきたいと考えています。

本会議審議

委員会付託省略



鶉野飛行場跡地

議案第47号 国有財産（鶉野飛行場跡地）の取得について

都市再生整備計画（鶉野地区）に基づく事業用地として国有財産を取得しようとするもの。
（面積 54,187.83 平方メートル、取得価格 5,750 万円）

問 3月末までに払い下げ手続きが完了するとの説明を受け、12月議会では用地取得の予算案も議決されていた。今年2月に突然、審議会が開催されず、結果的に3カ月の遅れとなった経緯について。

答 防衛省・財務省・加西市の三者協議による行程表に基づいた、防衛省の用途廃止及び財務省への財産引き継ぎ、財務省・加西市間での公共随契に係る課題の調査・不動産鑑定・測量・分筆登記・財産取得要望等の一連事務手続きを、市は丁寧に対応してまいりました。

今回の遅延は、ただただ国有財産近畿地方審議会の開催の延期によるもので、改めて開催された審議会で、加西市への売却が適当であるとの答申後、神戸財務事務所には、過密なスケジュールのなか売り払い手続きを進めていただいていた今日に至っています。



問 今後の鶉野飛行場跡地の活用について。

答 （市長）国道372号線のバイパス化にあわせて、民間活力を取り入れた道の駅なども視野に入れながら、全国から多くの人々が訪れるような平和祈念施設として整備したいと考えています。

問 当初の取り組みから20数年を経て実現した一番の要因は、やはり都市再生整備計画をはじめとして、利用目的を明確化したことが大きいのか。

答 （市長）道路を含めた総合的なまちづくりを計画したことが、加西市による具体的な跡地活用の理解につながったと考えています。

問 保存会の皆さんが10数年かけて史跡の重要さを広く知らしめることに取り組んできたことが、貢献として大きかったのではないか。

答 （市長）将来の絵が見えないなかで、保存会等の活動には本当に心からの敬意を表し、今後よい施設をつくるのがひとつの報いになればと思っています。

討論（賛成） 安価な価格での取得は、執行者の努力の賜物である。今後、戦争史跡公園、防災拠点、国道372号線のバイパス、道の駅計画を進め、地域活性化にむけてスピード感をもって取り組むことを期待する。